

No. 108 2022. 6. 1

〒421-0522
 静岡県牧之原市相良 240-1
 (児童発達支援・放課後等
 デイサービス)
 つくしの家
 (生活介護事業所)
 つくしホーム
 ☎ 0548-52-2225
 事務局 52-0825
 F A X 52-1156
 e-mail:tsukushihome@
 aioros.ocn.ne.jp

つくしの家だより

HP アドレス <http://ichiyokai.sakura.ne.jp/>

電池はなくても… 栗林 均



何故か、ふっと思い出す風景があります。数年前のことです。強い勢力を保ったまま紀伊半島に上陸し、近畿、東海、甲信、関東、東北を縦断した大きな台風がありました。つくしでも、いつもの台風の時よりも園庭の遊具の固定をしっかりとしたり、飛びそうなものを室内に入れたりと備えをしました。そして、暴風雨によりこの地域でもあちこちで停電になり、それが数日続く事が予想される状況でした。台風が通り過ぎた翌日の夜、補修用品を買いに近くのホームセンターに行った時のことです。もう閉店十五分前でした。何とか買物を終えて店の外に出ようとした時、自動ドアの所に一匹の子ネコがいるのに気づきました。しばらく見ていましたが、そのネコはその場か



ら動こうとはしませんでした。その時、駐車場に停めた車から慌てて閉店間際の店に入ろうとした一人の女性の方がいました。急いで入ろうとしたところで、そこにいたネコを見つけて立ち止まりました。その方は独り言のように「きつと、ここに置いておかれたんだ。かわいそうに」とネコを抱き上げました。「のら(ねこ)なら、こうやって抱かされない」「どうしよう、うちにはネコが三匹いるんだけど。連れて帰ったら怒られちゃうなあ…、どうしよう」そう言いながらも抱いたネコを下に降ろそうともしません。その方は私に向って「おたくも飼ってますか？」と聞かれたので「うちにも二匹いますよ」と答えましたが、その返事を聞いているようなないような…。その方は「どうしよう、怒られちゃうけど…」とずっと抱いたままです。「停電がまだなおらないんで、乾電池買いに来たのに、ネコ拾って帰ったら…、怒られるだろうな…、でも…」と、ネコを抱いたまま、もう車の方に歩き出しています。白黒の子ネコはその方に抱かれたままじっ

と動きません。店は閉店の時間になりました。乾電池も買わずにその方の車は駐車場を出て行きました。何だか不思議な出来事でした。相田みつをさんの詩が浮かんできました。

他人の物指し
 自分のものさし
 それぞれ寸法が
 ちがうんだな

子ども達との日々を振り返ってみました。今はこうしてほしい、これはやめてほしい、こうなってほしい…と、こちらの思いを伝えたくなるような場面がたくさん思い浮かんできます。でも子ども達は、こちらの思うようなあらわれをいつも見せてくれることばかりではなかったようにも思います。そんな様子に、ついまた言葉を投げかけてしまうことも…。でも気がつくのと、いつの間にかできるようになっていくことに気づくこともあります。子ども達にも、きつと一人ひとり違ったものさしがあつて、それぞれの目盛りをひとつずつ追いついて育っているのかもしれないなあ…、ふとそんなことを思いました。停電の部屋を照らす懐中電灯の電池、ラジオに入れる電池はなくても、きつと四匹のネコとあたたかな気持ちで夜を過ごしているだろう女性の方とご家族の姿がふと浮かんできました。

(二羊会理事長・つくしの家園長)

〜時が経って変わる事

そして変わらない事

増田 隆

つくしの園庭を抜ける風が、次第に湿り気を帯びてきました。稲穂が初夏の風に揺れている水田は、鏡面のように空を映しています。

今年度、つくしホームは新しく一名の新規利用者さんと職員を迎え、二十二名の利用者さんと十六名の職員でスタートしました。年齢も十代から七十代までと幅広い層となりますが、まず健康第一で、ひとりひとりの利用者さんが充実した毎日を送ることができるよう、日々を重ねてゆきたいと思っています。



新年度から三か月が経ちました。

四月から利用してくれている長田さんは、学校とは異なる生活リズムや日課に戸惑いもあるでしょうが、毎日体調を崩すことなく通ってきてくれています。立ったり座ったり、止まったり、時には回ったりしながらホールの中を動いています。上手にハミングしながら歌を口ずさみ、大好きな音楽が流れる本やギターやピアノなどの楽器の近くにきて、笑顔でその音色に耳を傾けています。童謡や優しい歌が好きで、手先もとても器用です。時には本や箱のようなものを上手に指で回しています。興味や関心のある事も多く、利用者さん、職員を問わず色んな人に近づき、つこりと微笑みかけながらかわりを求めてくれています。まだまだ慣れない事も多く、ペースをつかむのには時間もかかる事でしょう。長田さんがつくしホームに来てくれた思いを受け止め、笑顔が絶えないその表情がいつまでも続くように、急ぐことなくゆつくり、ゆつくり、かわりを続けたいと思っています。

特別支援学校高等部を卒業した拓美さんが硬い表情で玄関をくぐってきたのは、今から二十三年前のことです。アイドルや歌が大好きな拓美さんは、いつも大量の雑誌、記事の切り抜き等をかばんに詰めています。常に身の回りに置いてある規則



性を持つて整然と並べられた荷物は、まるで不安から自分を守る為の唯一の鎧(よろい)のようでした。思いが伝わらないとその場から動けず、外に出てしまうこともあり、まるで自分の居場所探しをしているようにも見えました。かたくなになつてしまふ心を、少しでも開いてもらいたい、つくしホームは安心していられるところだよ、ということがわかってもらえるように、いろんな取り組みをしました。当時、拓美さんは荷物を担当職員のデスクに並べていました。ホールから扉一枚隔てた職員室に、専用のワゴンテーブルを用意し、そこに荷物を自由に並べられるようにしました。時間と言葉をかけながら、少しずつワゴンをホールに近づけ、紙一枚ずつの単位で、荷物を減らし、ある時ついに扉を開けたホール側に置かれました。わずか半

歩余りの距離でも、拓美さんとは厚い壁の境界線を超えたのです。「すごいね、やったね」と言葉かけた時の嬉しそうな笑顔は今も忘れません。専用の連絡ノートを作り、毎日一緒にチェックを入れ、コメントを書き込みながら、時間の積み重ねが一日一枚ずつ増えて、ノートという形になりました。心が揺れ、寡黙になつている時には気持ちを短くまとめて返す会話を心掛けています。うちに、動きが止まる時間も、外に出る事も少なくなり、荷物も減りました。歳月を重ねながら、ここにもいいと思える場所や環境とは、どんなに快適で高価なソファより貴重だということ、嬉しい時も、悲しくつらい時も全て受容れ、伝えたい、そして伝えられる人がいることは、何にも代えがたいことであるということ、たとえ結果がすぐに表れ、伴わなくても無駄な時間は決してないということ：たくさんの事を拓美さんは教えてくれました。当時とは比べられないくらいに明るい表情でテーブル拭きや掃除などをこなし、自信をつけた拓美さんは、昨年十二月に他県に転居しました。誰にでもいろんな話題を提供しながら話しかける仲間のことや職員を常に気遣う言葉を掛けてくれて、その姿は思いやりにあふれています。共に笑い、泣き、時には怒鳴り合いながら過ごした日々は、語りつくせないほどの思い出

で一杯です。そんなかけがえのない時間を共に過ごす事が出来たことに、心から感謝しています。



つくしの家を卒園後、視覚特別支援学校(旧盲学校)に進み、つくしホームに入園した、陽気で明るく、誰にでも話しかける貴法さんは存在感たっぷりです。毎朝日めくりを忘れずめくり、食事、おやつの際に使う紙製のゴミ箱を配り、当番の順番もすべて覚えていて、「今日の挨拶は〇〇さんです」と教えてくれるほど記憶力抜群です。出会った人の名前は一度聞いただけで何年も覚えてしまい、家族構成や何色のどんな車に乗っているか、などの細かなことも頭に入っていて、メーカーや車種を当ててしまいます。毎日弾いてい

るピアノも得意で、腕前もかなりのもので、クリスマス会等の行事でも演奏してくれ、レパトリーも豊富です。あるシンポジウムでの演奏を聴きに行った時には、いつもの穏やかな表情ではなく、精爆な顔つきでピアノ教室の先生と登場しました。緊張感漂う空気の中、先生の伴奏に合わせて柔らかな左手で時に器用に両手を使いながら旋律を弾いています。幼いころからピアノを習い、何度も演奏会を経験しているせいか余裕すら感じさせる貴法さんの姿、いつもとは違った一面を見る思いでした。年後の自由活動では、ビーズ通しや電動ウオーカーに取り組みます。自分で好みのビーズを選んで、器用に作り上げる手作りのストラップは玄関で販売し、職員や保護者の皆さん、そして来訪者の方々に大好評でした。電動ウオーカーは毎日長い時間行い、体力も持久力もあります。ホールの中では白杖や介助に頼ることなく行動し、椅子や机は毎日違う配置になっていることが多いのに、器用にそれらを避けてスムーズに移動します。そして誰かに触れたときは、「〇〇さんですか？」と声をかけてくれます。音、臭い、触覚：さまざまな感覚を研ぎ澄まし、周囲の状況を判断していることと分けて、こちらのわずかな音、声を聞き分け、こちらが移動していても正確にその位置を当ててしまいます。自

宅では農作業やゴミ出しまで何でも手強い、ご家族もいろんなことを経ここ数年の験させてくれていたようです。限られた情報で頭の中に景色や情景を思い描きながら過ごし、私たちよりずっと豊かな想像力で世界をイメージしているのでしょうか。何か頂き物があれば、必ずありがとうございますというお礼の言葉を忘れない、とても優しい心遣いのできる貴法さんは、先月市外の障害者支援施設(入所施設)に移られました。楽しい事、嬉しい事、悲しかった事：多くの思い出を作り、共に時間を過ごす事が出来て私たちも幸せでした。陽気で誰にも気兼ねなく接する事が出来る貴法さんなら、きっと新しい仲間や人間関係がすぐに出来る事でしょう。ご家族からも、『つくしホームが大好きでした。いままでありがとう』というお言葉をいただきました。私達も貴法さんが大好きです。あなたをずっと忘れませんよ…。

ここ数年の間に、何人もの利用者さんたちがつくしホームを離れ、他の地域や事業所に移ってゆき、時には悲しい別れもありました。昭和から平成、そして令和へと時代が変わり、法制度だけでなく障害を持つ方々を取り巻く環境も多様化してきました。今では生まれ育った地域・家で暮らすことが特別なことではありませんが、つくしホームが設立され



た当時は、決してそうではありませんでした。数十年以上通い続けている方も含め、保護者の方々は、「行ってきます」と家を出て、「ただいま」と夕方帰る暮らしを長い間築いてきました。また、周りから与えられ、決められて生活するだけでなく、豊かな暮らしを求め、その人の思いを最優先にした生き方を考える相談支援体制がとられるようになりました。時が来るまで、生まれ育った家や地域から通い続けるということの重みを、強く感じています。コロナ禍における生活様式の変化、そして時代や価値観は変わっても、誰かと比べたり、制度に人を当てはめるのではなく、どんな障害があっても、一人の人として尊重し、その人に必要な事を常に考えてゆける事業所でありたいと願っています。

(つくしホーム施設長)

子どもに成長させて もらっています

増田 孝成

今年で夏連は5歳を迎え、日々成長していることを、親として大変うれしく思う毎日です。今日まで過ごしてきた道のりは、決して楽では無かったと感じる一方で、毎日つくしでも家でも楽しそうに過ごす姿を見ると、あつという間だなと感じています。

夏連は、ダウン症という障害を持って生まれてきました。生まれた時は、両親ともに障害について知る由が無く、知識も無かったので、生まれてから1週間後にお医者様から聞かされた時には、将来の不安等で、心が折れそうになることもありました。最初の頃は、周りの子どもと比べてしまい、落ち込んだりすることも多々あったのですが、1歳を過ぎたころからつくしに通うようになり、夏連以外の様々なお友達の楽しそうに笑う姿や、元気に走り回る姿を見て、どんな障害があっても夏連は夏連らしく一歩一歩進んでいけばいいと思えるようになりました。そんな風に思えるようになってからは、様々な不安が、成長していく事への期待へと変わっていき、今ではこの先の未来が楽しみです。

うちには、夏連の他に2人の子どもがいます。夏連は真ん中の子なので、時には可愛い弟であり、時には優しいお兄ちゃんです。3人の中で

が一番大人しく、おっとりここにしているのですが、我が家の癒しとして、大活躍中です。

最近、つくしで練習してきた日常生活等の行動を自分で実践しようと頑張っています。トイレに行きたい、喉が渴いた、眠たい、遊びたい等の表現が以前は上手にできなかったのですが、今ではいろんな意思を伝えてくれて、少しずつコミュニケーションをとれるようになり、夏連とコミュニケーションをとることが楽しいです。

私は、以前は夏連とコミュニケーションをとることを諦めかけていた時もありましたが、そんな不安を払拭してくれる、夏連の成長に、自分の方が成長していないな、夏連の成長に負けているなど感じました。自分が我が子にしてあげられることよりも、我が子に教えられることが多い、両親ともに、日々様々なことを、夏連を通じて教えてもらっています。

夏連がつくしに通って、お友達から様々な刺激をもらって成長し、その成長によって、私たちも成長しているの、つくしに通って本当に良かったと感じるとともに、これからの夏連が、もっと成長して、私たちが追い抜いて行ってくれる日を、非常に楽しみにしています。

最後に、素晴らしい場所を与えてくれた、つくしの皆様に感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

(つくしの家 園児保護者)

支え

林(旧姓藤原)祐実

三月末につくしホームを退職し二ヶ月。しばらくは心に大きな穴が開いたような、そんな気持ちでした。それほど、私にとって、つくしホームという存在は大きな存在なのです。

私は小さな頃から、今に至るまで自分の弱さによって周囲に迷惑をかけ、その度に支えられてきました。いつかは自分が誰かを支えたいと、学生の頃より対人援助職を目指すようになり、このつくしホームで『支援員』としてお仕事をさせて頂けることになりました。

しかし、『支援』する立場となっても尚、支えてもらっていたのは、私の方でした。私が笑顔でいられたかったとき、「どうしたの？」と見逃さない利用者さんがいました。満面の笑みで、私の顔を覗き込んでくれる利用者さんがいました。ずっと傍で手を離さない利用者さんがいました。自分の情けなさを猛省すると同時に、私は笑うことができました。私が感情的な対応をしてしまったとき、利用者さんたちも同じように感情をあらわにしました。同じことを伝えたくても、言葉ひとつで全く違う伝わり方になるのだと、利用者さんたちが教えてくれました。ぶつか

って、間違えて、伝わる言葉を見つけることは簡単ではないけれど、わかり合えた瞬間が確かにありました。

自分の弱さや間違いは向き合い、改善していかねければならないことですが、支援員も職員であつても、支えられているのだと思いません。言い換えれば、利用者の方々も私たちを支えてくださっているのです。今更ながら、『支援』という言葉を履き違え、『してあげよう』としていなかったかと思いつ返しています。

そんな私でも、大切な利用者の方々をお預けくださり、いつも温かい言葉をかけてくださったご家族の皆様、たくさんの方を教えてくださり、ずっと見守り続け、いつも助けてくださった園長先生をはじめとする職員の皆様へ：おひとりおひとりにきちんとお伝えできなかったのですが、この場を借りて心より感謝申し上げます。今感じる淋しさや悔やんでいることさえも、実はとても幸せなこと、つくしホームでの全てが私の支えだった証だと思っと思っています。

でも、どうしても淋しくなったときは、こっそり遊びに行かせてください。

(つくしホーム旧職員)

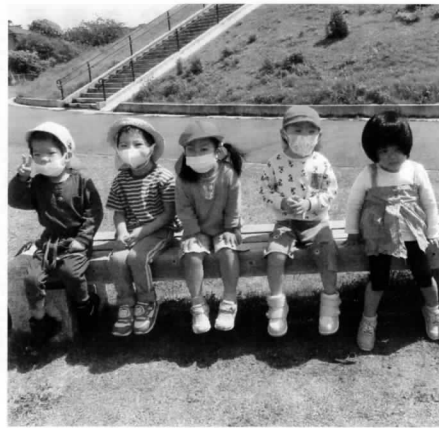
ご報告

新型コロナウイルスの感染がはじまって、もう二年半が経とうとしています。少しずつ形を変えながら流行を広げる変異株、ここ数ヶ月は、小さな子ども達の間でも感染が広がり、近隣の保育園や幼稚園、学校でも休園や学級閉鎖も続きました。手指の消毒やマスクの着用に加えて、ワクチン接種も進む中、それでも少しずつ感染が減ってきているのでしょうか、この五月のゴールデンウィークには、観光地での人出やにぎわいも少しずつ戻ってきている様子がニュースから流れてきました。

また、ロシアによるウクライナへの侵攻の報道もありました。戦争という言葉はもう過去のもの、決して繰り返してはいけないものだど誰もが思っていた中でのことでした。次々と破壊されていく建物、行き交う戦車、街中に横たわる遺体、地下に避難するたくさんの人々、幼い子ども達の命も失われていく映像に心が痛みました。侵攻が終わり、復興への歩みが始まることを祈っています。

この春、つくしの家には三歳から五歳の八人の新しいお友達が入園。三十一人の子とも達と親子教室のお友達で、つくしホームには特別支援学校高等部を卒業した一人が加わり、十八歳から七十四歳までの二十二人の

利用者さんでそれぞれの新しい一年が始まりました。そして二か月…みんなを迎えてくれた園庭の満開の桜は砂場の上の藤の花へ、そして木々の葉が少しずつ色を濃くしながら初夏の陽ざしと風の中で気持ちよさそうに揺れています。今日もそんな園庭から子ども達のにぎやかな声が聞こえています。



先日開いた冊子の中にこんな詩を見つけました。

あたりまえ

おはよう、いい天気だね。
君の寝癖を直す、あたりまえの朝。

おやすみ、また明日ね。
ギュツとして眠る、あたりまえの夜。

いつもの挨拶も、ごはんも、
ニコリも、心配も、涙も、
抱っこも、苛立ちも、

あなたがくれるすべての『あたりまえ』は、恐ろしいほど特別だつてこと、災害やウイルスが何度も私に教える。どうか明日もあさつても『あたりまえ』という名の奇跡が消えませんが。

なかなか終息とはならない感染、大切な人の命が失われるような出来事…、子ども達、利用者の皆さん、ご家族の皆様とのかけがえのない時間の中にある小さな『あたりまえ』という幸せを、みんなで大切に感じながらこれからも元気に歩いて行きたいと思えます。

令和3年度 心身障害児通園施設つくしの家

後援会 決算報告書

収入金額	2,090,063 円
支出金額	393,301 円
差引金額	1,696,762 円

収入の部

科目	金額	説明
1 寄附金収入	2,089,995	265 口
2 雑収入	68	預金利子
合計	2,090,063	

支出の部

科目	金額	説明
1 事業費支出	393,301	
(1) 一般物品費	8,746	事務用品代
(2) 印刷製本費	127,600	たより106号、107号
(3) 役務費	253,912	払込料金、たより発送代
(4) 雑費	3,043	残高証明手数料
2 繰入金支出	0	
(1) 本部会計繰入金支出	0	
3 雑支出	0	
(1) 雑支出	0	
合計	393,301	

取扱金融機関のご案内

三菱UFJ銀行静岡支店
普通 4254072
口座名 つくしの家後援会
(以下同じ)
静岡銀行相良支店
普通 145949
島田掛川信用金庫相良支店
(旧島田信用金庫) 普通 134511

郵便振替
00820-5-57983
口座名 心身障害児通園施設
つくしの家後援会

令和三年度の後援会決算を感謝をもってご報告させていただきます。これから梅雨の時期を迎えます。皆様のご自愛を心よりお祈り申し上げます。ご報告とさせていただきます。

つばめ

◆つくしの家のあゆみ

十一月 ◎交通安全協会の指導員さん達による「交通安全教室」をおこないました。とてもいい経験になりました。◎島田法人会女性部相良支部の皆さんが窓ふきをして下さり、ノートなどの文房具とポケットティッシュをいただきました。◎民生委員の皆様とお散歩交流をおこないました。◎市内の菅沼様のお宅で年長の子ども達がお芋堀りをさせていただきました。◎山下オート商会様よりアルコール消毒液をいただきました。◎園庭に新しく鉄棒を設置しました。◎日赤奉仕団相良分団、島田法人会青年部の皆様からタオルや緑茶をいただきました。◎親子教室（こぐま教室）で十一年半の間勤務して下さった藤野倫子先生が退職されました。十二月 ◎おはなし会で、グランマさん、中川さん、パレットさんが来て下さいました。◎障害者週間で子ども達が作った来年のカレンダーをお世話になった皆さんに届けました。◎今年も子ども達とクリスマス会をしました。職員の演奏やオペレッタ、バイキング昼食を楽しみました。今回も市内の結婚式場「うおとも」の山下社長サンタさんが登場！とっても温かな会になりました。

一月 ◎星いきいき社会福祉財団様より、緊急時・災害時などに使うトランシーバー3台をいただきました。◎みんなが書き初め、筆やペンを持ってそれぞれの思いを書きました。

二月 ◎牧之原小学校の皆さんよりアルミ缶回収の収益で楽器、ボール教材をプレゼントしていただきました。◎今年度も「カーブス牧之原相良」様よりチャリティーイベントで食料をいただきました。◎牧之原市社会福祉大会で増田敦子先生が表彰されました。◎相良区の皆様よりカレンダーを沢山いただきました。

三月 ◎こぐま教室に二十一年間勤務して下さった大石智子先生が退職されました。◎保護者会から、行事などで飾る薄紙のお花を作る「メイクラワー花子ちゃん」をいただきました。◎つくし西館のカーペット張替え工事をしました。◎牧之原市により敷地の松や榎の木の剪定をしていただきました。◎十人のお友達が卒園、新しい道に歩き出しました。四月 ◎八人の新しいお友達を迎えて入園式をおこないました。三十一人の子ども達とこぐま教室のお友達で新しい一年がスタートしました。



◆つくしホームから

11月 ☆島田法人会相良支部の皆さんが清掃作業。窓がピカピカになり、皆の心も明るくなりました。ありがとうございます。☆民生委員さん達との散歩交流会。久しぶりにお会いして、街を歩きました。また、民生委員さん他お2人が機械で草刈りをして下さり、中庭がとってもきれいになりました。☆「せせらぎ」・「つばめ」グループが小堤山公園に出掛け、緑の中のんびり過ごしてきました。☆山下オート商会様より消毒用アルコールジェルをいただきました。☆阿佐ヶ谷教会「地の塩会」の皆さんからDVDレターが届き、とても温かな気持ちになりました。今年の再会を願っています。

12月 ☆お世話になった方々へ手作りカレンダーを届けました。☆クリスマス会は、利用者さんと職員でゲーム、会食、そしてサンタさんからのプレゼントもあり、笑顔いっぱいの時を過ごしました。☆西村雅子支援員が退職、大石真理子支援員が勤務になりました。☆横山拓美さんが転居の為退所になりました。

1月 ☆尾崎光紀さんが成人を迎え、みんなでお祝い。いろんな経験をして、一緒に成長していきましようね。☆書初め。ひとりひとりが個性あふれる言葉が書かれました。☆尾崎貴法さんが、市外の入所施設に移られました。☆平井絵梨支援員が勤務となりました。

編集後記

コロナウィルの感染が始まって2年半が経ちました。以前から交流している伊豆の事業所の皆さんからつくしホームに菜の花の種が届きました。春の始め、園庭のプランターに黄色い花がたくさん咲きました。コロナの中、お花をとおしてあたたかな気持ちになりました。早く感染がおさまりますように…。

2月 ☆葛川聡さんが別の事業所に移りました。☆豆まき。無病息災、コロナウィルスの1日も早い終息、皆の健康を願いました。☆カーブス牧之原相良店様より今年もフードドライブ事業に寄せられた食料品をいただきました。皆さまの温かいお気持ちに心より感謝申し上げます。☆片瀬恵理支援員が退職しました。

3月 ☆ひなまつり会。つばめグループが作った雛飾りの前で撮影会。その後はゲームや紙芝居を楽しみました。☆萩間小学校児童会の皆様よりアルミ缶回収の収益を寄付していただきました。☆静岡県よりたくさんのマスクとビニール手袋をいただきました。☆笠原安衣さんが退所となり、藤原祐実支援員が退職しました。

4月 ☆吉田特別支援学校を卒業した長田淳宏さんがホームの仲間になり、職員として新倉昌子さんを迎えました。☆食事は出前注文。自分で選んだものを食べて皆満足でした。